

雨宮坐日吉神社 御神事◆国指定重要無形民俗文化財
あめのみや ごじんじ

雨宮の御神事

雨宮の御神事とは「雨宮坐(あめのみやにいます)日吉神社」の春季祈年祭の事で「獅子踊り」ともいう。

◎開催日: 4月29日(2007年より「昭和の日」祝日)3年に一度 (文化財指定は昭56年)

◎開催地: 千曲市雨宮 雨宮坐(あめのみやにいます)日吉神社

◎由来: 本来は疫病や田畑の荒廃など、たたりの元凶となる怨霊を鎮めるために始まった祭りとされている。怨霊を華やかな踊りやお囃子で盛大に送り出すというもの。これに田畑の豊穰の願いも加わった。

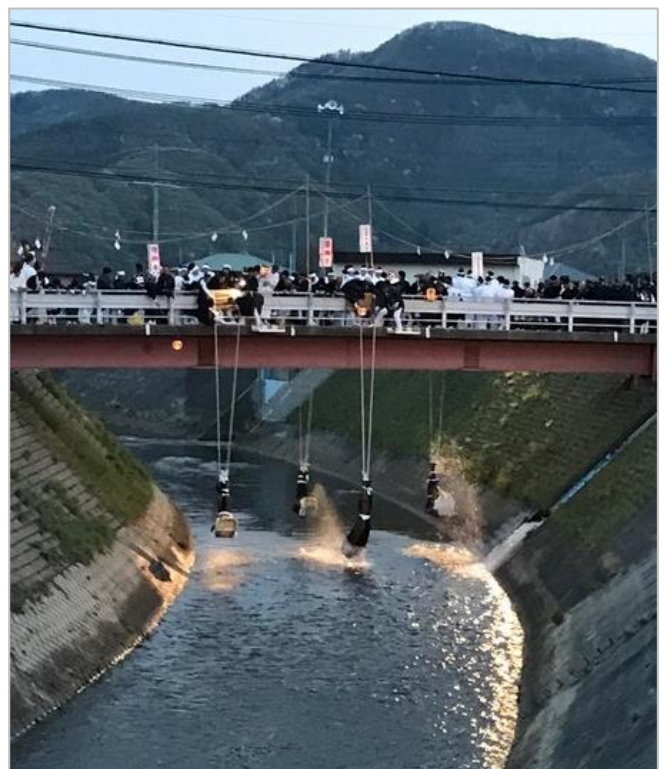
◎御神事踊りと神輿



《橋懸かり》(御神事踊りの一つ)

踊りのクライマックス。

生仁川「斎場橋」で4頭の獅子が宙づりになり
水面を叩いて御霊送りをする踊り



◎次第

・お道具受け 9:00～→町太鼓(ふれ太鼓)の合図

御神事踊り 13:00～ 行列が方々を回り、各場所で踊られる

①本社<朝踊り・城踊り> ②若宮社 ③北町 ④御旅所→鳥居前

⑤<化粧落とし> 18:05～

お立会で獅子頭の白紙(紙飾り)を剥がす踊り

⑥<橋懸り> 18:30～

生仁川「斎場橋」で4頭の獅子が宙づりになり水面を叩く(御霊送り)

⑦<山踊り> 19:00～ 唐崎社で最後に踊る踊り→社前に戻って終了。⑧本社帰還 19:30

神輿

①本社出発 15:00

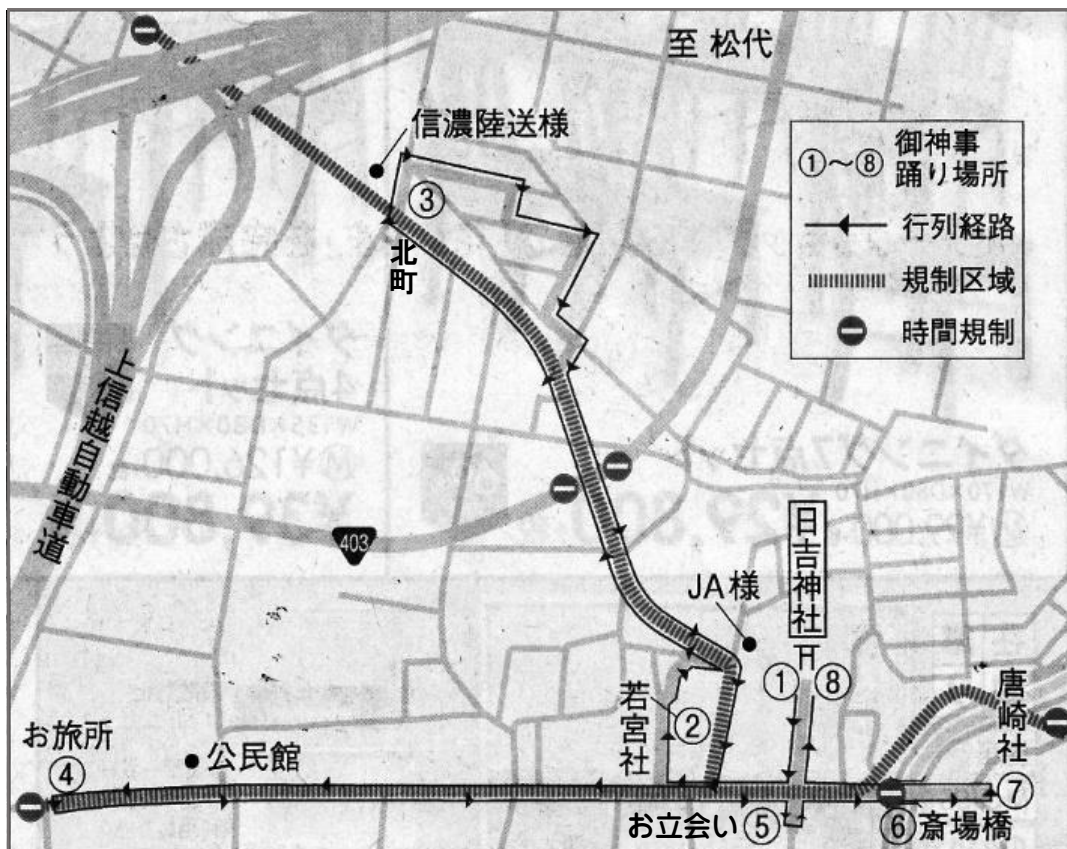
③北町着 15:40

④お旅所着 17:05

⑤お立会い着 17:55

⑥斎場橋着 18:30

⑧本社帰還 19:30



雨宮坐(あめのみやにいます)日吉神社 (千曲市雨宮) 明治元年(1868年) 現社号に改まる



天つ神を祭るので「天宮(あめのみや)」と称された。
 (*天つ神:「天井の国」高天原の神々とその系統)
 祭られている神々:

- ・大己貴(おおなむち)命(大国主命)
 - ・少彦名(すくなひこな)命…国土経営、農業の神
 - ・大山咋(おおやまくい)の命…(7C中頃) 治山治水の神として、滋賀県大津の日吉(ひえ)神社から招く。
- この合祭によって、社号を天ノ宮、後に雨宮と書き

改め、日吉大権現(だいがんげん)・日吉山王宮とも呼ばれたが、明治元年に現社号となる。本来の姿は、農耕の神であり、雨乞い、水厄除けの神として祭られた原始的な神社だった。天文22年(1554)、第1回川中島合戦の折には武田軍の本陣となった。雨宮摂津守や清野公など当時の地方豪族や松代藩士に崇拝され、社領などの寄進を受けた。